

pro

Proceedings 議事録



- 日時 : 平成27年8月4日（火） 9:00～12:00
場所 : 新潟市役所白山浦庁舎 1号棟 2階 教育会議室1
- 出席者 委員 : 中村 恵子（新潟青陵大学 教授）
福島 實（新潟市子ども会連絡協議会 会長）
近藤 淳一（新潟国際友好会館 館長）
長浜 裕子（新潟市教育委員会 教育次長）

丹治 嘉彦（新潟大学教育学部芸術環境講座 教授）
逸見 覚（(株)けんと放送 取締役 放送局長）
長井 亮一（新潟市文化スポーツ部 部長）
- 欠席者 委員 : 齊藤 裕子（新潟市教育委員会学校支援課 副参事）
池主 透子（TC-Wave 代表）
菊野 麻子（フリーアナウンサー）
- 出席者 事務局 : 佐々木 克己（教育委員会地域教育推進課 課長）
枝並 素子（教育委員会地域教育推進課 課長補佐）
増田 徹（教育委員会地域教育推進課 副主査）
中野 力（文化スポーツ部文化政策課 課長）
黒川 正憲（文化スポーツ部文化政策課 主査）
水野 利数（地域魅力創造部 政策監）
相馬 浩幸（地域魅力創造部 係長）
阿部 康道（大畑少年センター 所長）
半藤 千枝子（大畑少年センター 事業担当）
- 出席者 策定支援 : 町田 誠（本間総合建築 取締役）
- 全体進行 : 枝並 素子（教育委員会地域教育推進課 課長補佐）
- 傍聴者 : 4名

◆ 議事内容

1. 現地視察 9:00~

: 旧二葉中学校

2. 事務局挨拶 10:25~

: 佐々木 克己 (教育委員会地域教育推進課 課長)

- ・大畑少年センターは年間5万人に利用されている。
- ・施設は老朽化が進み、耐震工事も必要であるが、都市計画道路と重なっているため、現地での建替も難しい。
- ・そのような背景から、当基本計画を策定することになった。
- ・この委員会において委員の方々から忌憚のない意見を頂きたい。

3. 委員紹介

4. 委員長・副委員長選出

委員長 : 中村 恵子 (新潟青陵大学 教授)

副委員長 : 福島 實 (新潟市子ども会連絡協議会 会長)

5. 議事 ※進行は委員長

(1) 事業説明

《資料》旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会について 資料1

: 枝並 素子 (教育委員会地域教育推進課 課長補佐)

- ・概要、背景、整備方針、施設改修条件、全体スケジュール、策定委員、アドバイザーについて資料に沿って説明。

《資料》旧二葉中学校跡地周辺活用計画図(案) 地域魅力創造部

: 水野 利数 (地域魅力創造部 政策監)

相馬 浩幸 (地域魅力創造部 係長)

- ・風致地区に囲まれ、海岸道路に面しているなどの立地特性を活かし、国際的な交流拠点とし、全市的視点から跡地の活用を図る構想に位置づけている。
- ・上記全体方針のもとで校舎の活用検討がある。
- ・校舎については、大畑少年センターの移転に加え芸術創造ファクトリーの活用を主に検討していく。
- ・その他校舎以外のグラウンドについては、国際交流の為の広場と民間の活力を利用してカフェ・レストラン等も検討。

〈質疑〉

- ・自然体験活動を重視するのであれば、グラウンドに建物を建てることは、若干不都合があるのではないか。（福島委員）
 - 跡地周辺活用計画案は未決定の内容。二葉中校舎中心で考えて頂いて良い。
(枝並 地域教育推進課長補佐)
 - グラウンドに関しては市有地を民間に貸出し民間が運営するイメージ。
(相馬 地域魅力創造部係長)
- ・地域魅力創造部の行政としての位置づけについてお聞きしたい。（福島委員）
 - 行政としては大きな権限や予算を持つ部署ではないが、二葉中跡地については多くの部署がかかわるので、総合調整的役割を担っている。
(水野 地域魅力創造部政策監)

(2) 施設内容提案

《資料》旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会（第1回）資料2
： 町田 誠（本間総合建築）

- ・全体説明（基本方針と3テーマ 複合、交流、活性）
- ・青少年センター機能と創造ファクトリー機能の複合化
- ・整備方針に基づく機能提案（提案居室の説明）
- ・事例集に沿って3施設を説明

(3) 施設内容委員提案：

- ・提案内容は貸借を想定されているのか。（長井委員）
 - 具体的な想定を行ってはいない。成功の鍵はハードではなく、ソフト面であり、力のあるディレクターによる運営と思う。（本間総合建築）
- ・ラウンジ利用の想定で、地域住民がベビーカーを引いてこちらへ来る市民は少ないのではないかと。また駐車場の台数想定があれば、教えて頂きたい。（逸見委員）
 - 具体的な台数の想定はない。施設利用者数の想定を考える必要がある。
(枝並 地域教育推進課長補佐)
- ・この委員会で運営形態を検討すべき。
また新潟で成功する為に3年以降まで考慮した運営形態の検討が望まれる。
(丹治委員)
 - 運営形態等は未確定の為、本日は提案内容の意見を頂きたい。
(枝並 地域教育推進課長補佐)
- ・創造ファクトリーと青少年センターと複合化した時にどのような方向性になるのかの議論も必要ではないか。
また両施設をまとめられるディレクターを探すのは難しいのではないかと。（中村委員）

- ・青少年機能という立場から、広く他の施設を見ていると利用年齢層の幅が少なく、どちらかという閉鎖的。特に、大畑少年センターにおけるロシアからの交流では、青年が多く、大畑の利用者との年齢差が大きい。青少年とアートが融合できれば、活動の幅が広がってよいと思う。（福島委員）
- ・海外ではタトゥーもアートであり、そのような方が青年と一緒に活動するのはいかがなものか。（逸見委員）
- ・排除ではなく、どこまで融合できかと利用者幅の制限が難しい。（福島委員）
- ・芸術は社会に対しては異質なもの。それを踏まえた上で、青少年との交流することで新たな発見が生まれるのではないか。（丹治委員）
- ・小中高くらいと大人との交流を当初考えていた。（長井委員）
- ・二葉中の耐震性能はどうか。資料2 P1の1階平面図④の壁を抜いても問題ないのか。（福島委員）
 - 特に耐震性能に問題は無いと聞いている。（本間総合建築）
- ・大畑少年センターの利用料金をご教示頂きたい。（逸見委員）
 - 大畑少年センターは料金を取っていない。シーツ代等実費のみ。
（枝並 地域教育推進課長補佐）
- ・青少年センターと創造ファクトリーの経営形態が各々で変わるのであれば、考慮した検討が必要。（長浜委員）
- ・青少年センターと創造ファクトリーが重なりあって交流を深めることができるのであれば、そのようなスペースがあるのが良いと思う。（近藤委員）
- ・総論としては、世代を超えた交流、複合化が良いという大きな方向性。
今後、各論で詳細を検討していく。（中村委員）
- ・運営形態はどうするのか。
指定管理者による類似施設の運営では、スタッフが足りないというのが実情。
（丹治委員）
- ・5年、10年後までも続いていく施設にしなければならない。（中村委員）

(4) その他

- ・追加意見等は 8月14日までに地域教育推進課に提出
- ・大畑少年センターの活動内容と稼働率をご教示頂きたい。(長井委員)
 - 宿泊部分の稼働率 17%/年、1日の平均利用者数 175人。(長浜委員)

6. 連絡

- (1) 第2回委員会の日程について： 日程調整表を今週中に地域教育推進課に提出

日時 : 未定

場所 : 未定

以上